

動物かるた

今日は1年生の理科でとても面白い授業を見ました。1年生の理科は今、「生物の分類」を学習しています。概略としては、脊椎動物と無脊椎動物、それぞれの分類です。今日の授業で無脊椎動物について学習し、この単元の学習がひととおり終わりました。その時点で授業時間は残り10分ほどでした。そこで、理科の先生が取り出したのが、「動物かるた」でした。何が始まるのか、興味本位で見ていると、とても面白い活動が始まりました。

普通、かるたと言えば、「**い**ぬも歩けば棒に当たる」のように文章を読み、冒頭の文字の「い」の札を探し、早くとった人が所持します。しかし、今は理科の時間です。動物の分類を学習した後ですので、読みは学習内容に沿ったものになります。

例えば、右のかるたを例にしてみましょう。

先生「背骨があります」

「卵生です(卵で増えます)」

「肺呼吸です」

「体は羽毛で覆われています」

生徒「はい!」

早く分かった人が札をとります。

先生「正解は―――」

「ペンギンです!」



となり、ペンギンの札をとった人が札を所持するようになります。

私は、このようなかるたを初めて見ましたが、とても面白いものだと思います。学習したことが活かされるからです。

理科の先生は、この後も次々に出題していました。

「子は水中、大人は陸で生活するのは?」「えらで呼吸するのは?」「背骨がなく、体が外骨格で覆われているのは?」「足に節があるのは?」・・・これらの問いをもとに、子ども達はあてはまる札を探していました。ゲーム形式ではありますが、学習内容を理解していないと、できないものです。理解している生徒は、札をとることができていました。

とても面白い授業でした。



僕たちは、同じ仲間かなあ?
共通するところもあるけど、
違うところもあるような気がするなあ・・・

